

基本的な疑問

四神・四霊 と 十二支

何故、このふたつを、

饅絵蔵の主題にしたか。

MfG_J_Saffron-Shu_site_is_an_excellent_theme_park



サフラン酒はテーマパーク

2021年11月

春日

私は、サフラン酒創業者の吉澤仁太郎氏は、大変な教養人だったと思っています。最近は、こちらが優勢になってきましたが、しかし単なる「金持ち道楽」、と評価する人もいないわけではありません。この評価は、両極端です。この両極端とも云うべきゲストの印象が何故生まれたか、について、いろいろと考えました。

そして、仁太郎さんが創造した世界、仁太郎ワールドは、元来二面性をもつテーマパークともいうべきもので、うっかりして読み違えると、このような誤解を生じることになりがちということに気づきました。

もしかしたら、ということで、
今、抱えています『仁太郎ワールド』のイメージは
言葉で説明すると長くなりますが、簡単にすると、
以下の二つの図の通りです。

詳細は、本ウェブサイト中の、他のプレゼン資料で説明し
ています。(プレゼン資料名を、本文末に掲示)

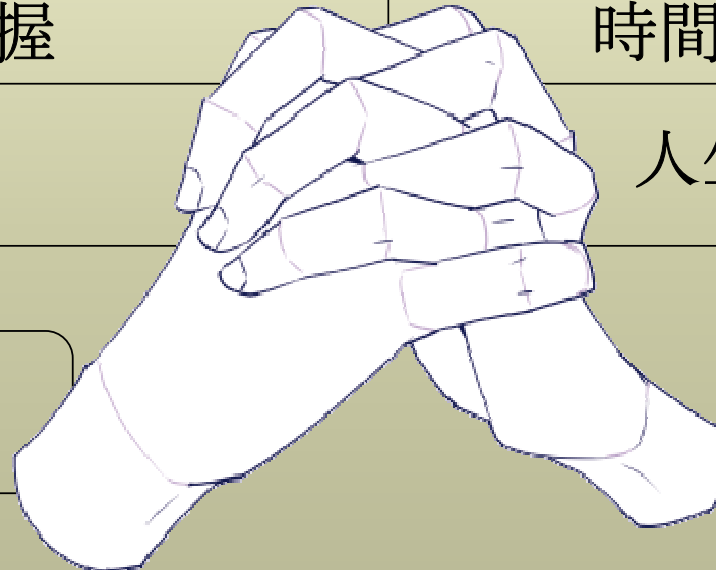
四神・四霊 と 十二支

そして、仁太郎ワールドの二面性

饅絵蔵の意匠の意図は

招福・魔除け	祈りと感謝
地域安寧	五穀豊穰

五行説・五大思想 世界の構成要素	十干十二支 農耕、勤労の奨励
空間の把握	時間・次元の把握
世界観	人生観



四神・四霊

十二支

○ 四神・四霊 と 十二支

何故、このふたつを、饅絵蔵の主題にしたか。

○ 仁太郎さんの、世界観と人生観 を

託したのかも知れません。

仁太郎ワールドの二面性

遊びと奉仕の
テーマパーク

さまざまな守護神

「招福・魔除け、五穀豊穰、
商売繁盛、子孫繁栄」

「地域の安寧」

人々に日々の喜びを
もたらす祈り

祈りと感謝の
テーマパーク

さまざまな結界

「四神・四霊と十二支」

如来の「昇り龍・降り龍」

「薬師如来」への誓い

仁太郎の世界観、人生観

○ 表面の姿として、「遊びと奉仕」

仁太郎さんの趣味と、
顧客や訪問者への、奉仕(おもてなし)

○ 隠れている姿として、「祈りと感謝」

仁太郎さんの信仰、祈り、人生観のベースとして、
薬師如来、龍、そして四神・四霊と十二支への
祈りと感謝

その根幹として、薬師如来の脇を飾る、
昇り龍・降り龍 がある。

これは、大乘仏教の上求菩提・下化衆生を
意味するものであり、
親鸞の往相回向・還相回向、
道元の自利利他相即にも通じるものと
考える。

テーマパークのなかに、このようなもの
があるというと、考え過ぎでしょうか。

仁太郎ワールドの解説 ブレゼン風

- (1) 饅絵・置換と比喻
- (2) 薬種から猪の目へ
- (3) 最後は報恩感謝
- (4) パワースポット
- (5) 薬師如来とアトリビュート
- (6) サフラン酒の饅絵の見どころ

ファイル名

MfG_J_interlock_and_conversion

MfG_J_Inome_Buddhism

MfG_J_Garden_Buddhism

MfG_J_spiritual_places_in_Kina-Saffron_shu Brewery

MfG_J_Yakushi_Nyorai_and_attributes

MfG_J_Splendor_of_Figurative_Art_in_Kote-E